



大石みえこ

活動だより

〒343-0827 越谷市川柳町4-245-1 朝日プラザ736
TEL 048-989-3808 FAX 048-989-3812



故郷・南相馬市での支援活動

この度の震災では被災された方々に心からのお見舞いと、またお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。

私は昭和27年、母の実家がある福島県双葉郡葛尾村で生まれ、3歳頃から南相馬市（合併前は相馬郡小高町）で、23歳まで過ごしました。相馬は野馬追いや新相馬節の民謡でもお馴染みですが、私は相馬港から水揚げされる海産物がなにより好きでした。また、秋には川でとれた鮭や季節の野菜をたっぷり入れた芋煮会などをやり、友人たちと青春を謳歌していたものです。

そんな私の故郷・小高は、3月11日で時間が止まってしまいました。未曾有のマグニチュード9.0という地震の後、予想すら出来ないような大津波・・・その直後に起きた原子力発電所の事故で、緊急避難を余儀なくされた人たちが沢山おられます。私の実家のように津波で全て流された所も、何の支障も無い所も、全く手付かずで、だれも立ち入る事の出来ないまま。それが私の故郷となっていました。

3月26日、大野元裕参議院議員や災害対策部の国会議員の方々と共に南相馬市に支援活動に行つて参りました。勿論、全員自己責任と言うこ

とで全て自費です。

深夜1時に埼玉を出発。二本松を抜ける時は雪の降り積もる中、チェーンを巻いてやっと山越え。途中でガソリンを入れるために1時間半もかかり、南相馬市役所に朝7時に到着。その日は主に原町第一小学校に避難している方や地域の方々に救済物資配給の手伝い。27日はボランティアセンターや東北電力でお話を伺い、海沿いに出て津波の被害状況を視察。大熊町の方々が避難している田村町の総合体育館にて支援活動をして帰ってきました。

私が今回南相馬で見てきた事は、言葉で言い表せるものではありません。ただ、テレビで見える平面の景色



支援物資を運ぶ私と大野元裕氏

と、現地の空気を吸い、360度が見え山を見回した景色とは、あまりにも相違があります。私もこれからの復興に全力で取り組んで参ります。



避難所の前で見つけた雪だるま。重い気持ちと復興への思いを感じました。

越谷市に避難してきた方々への支援

市民の皆様の親身なご協力により、多大な支援物資を被災地にお送りする事が出来ました。心から感謝致します。越谷市では各地の老人福祉施設に避難してきた方々を受け入れました。避難所に支援物資をお届けに同行して頂いた地元の方々には靴や物干しやハンガーなど、子供達には、バットやグローブも持って来て下さり、また知人の方からお米もお送りいただきました。

現在では、市営住宅等に移り越谷市民としての生活を送ろうとしています。不慣れた土地での避難生活は精神的、体力的にも大変な事かと思います。地域の方々には是非協力と交流をお願いします。